

ぬちゅッぬちゅッぐちゅッ……♡♡

先程より速くなった抜き挿しを受けながら、幼茎から押し出されるように白蜜を散らす。

びしゃ、とそれは板間につく手元にまで飛んで、日に焼けた檜葉ひばを濃い色に染めた。

「前まへを触られてもいねえのに、相変わらずすげえな」

「勝手に射精だすなと言っただろう？」

「おらッ、仕置きだ……っ」

「ひあッ♡♡あああ…ッ！♡♡♡」

ますます抽送を速められ、引かれすぎてジンジンする乳首を今度は指で直接もてあそばれる。絶頂したばかりの身体に鋭い刺激が駆け下り、雄茎おを突き入れられる尻はげが烈しくうち振られる。

「ひいっ♡、あ♡、あ♡……ああああーッ！♡♡♡♡♡」

あっという間にふたたび昇のぼりつめ、強く突き込まれた瞬間にまた白蜜を飛ばす。